

グラフィックデザイン分野における外来語 「センス」の意味について

川 部 大 輔

グラフィックデザイン分野における外来語「センス」の意味について

川部大輔

目次

1. はじめに
 - (1) 外来語「センス」について
 - (2) 問題の所在・研究の背景
 - (3) 研究の目的・方法
2. 先行研究
3. 現代の書籍における使用状況
4. 調査について
 - (1) 調査対象
 - (2) 調査方法
 - (3) 調査結果
5. 分析・考察
 - (1) 調査結果の分析
 - (2) 考察
6. おわりに

要旨:

デザインの現場において「センス」という外来語がよく使用されるが、その意味するところは曖昧である。

筆者が従事するデザイン教育の場において学生が使用する「センス」という言葉の裏には、デザインセンスが先天的能力であるという認識があるように思われる。しかしそれは教育従事者側の認識と異なるものである。

そこで、デザイン教育の視座から「センス」にまつわるコミュニケーションギャップの是正を試みるため、現状を把握し整理することとした。

現在のグラフィックデザイン分野において使用される「センス」の意味が統一されていないという事実を明らかにすることを本研究の目的とし、調査方法はKJ法とした。近年のグラフィックデザイン関連書籍を選定し、それらにおいて「センス」がどのような意味で使用されているかが表れている部分を抽出したものを調査対象とし、分類整理を行うものである。

先行研究ではいずれも「現代のセンスの意味は安定し、統一されている」との見解が示されていたが、調査の結果「センス」の意味には先天的・後天的という逆の意味が含まれ、混在しているということが本研究で明らかになった。

1. はじめに

(1) 外来語「センス」について

デザインの現場において、作者や作品を評する際に「センス」という用語が頻出する。しかしその言葉の意味するところは曖昧であり、必ずしも定義が一致していないままコミュニケーションがなされているように思われる場面も少なくない。

そもそも「センス」は英語で「感覚」などの意味を持つ「sense」を語源としているが、

日本語においての意味はそれと異なり、芸術分野では「美的判断力」、スポーツ分野では「身体を操る能力」、ビジネス等では「思慮・良識」のような意味をなすことが多いとされる。

そのような意味での「センス」に近い言葉として「コモン・センス(常識)」があるが、中村雄二郎『共通感覚論』によればその淵源は古代ギリシアのアリストテレスが説いた「センスス・コムニス」にあるとされる。当初、その意味するところは「五感を統合して働く全体的な感得力」であったが、後のス

トア派により「常識」という先述の「コモン・センス」に繋がる意味が形成されていく。中村はこの場合の「常識」を「実際的な理解力、物事を正当な光のなかで見る人々の能力、健全な判断力」のことであるとしており、その定義はやはり現代の日本語における「センス」のそれに通じるものがある。

(2) 問題の所在・研究の背景

筆者が従事しているグラフィックデザイン教育の場においても「センス」という言葉は多く用いられるが、その大部分が否定的な意味での使用という印象がある。学生同士が互いの服装を褒め合う際に「センスがいい」と肯定的に使用されるのに対し、デザイン作品の制作にあたっては「センスが悪い」「センスがない」という使用が圧倒的に多くなる。そこには「良いデザインは限られた人にしかできない」という諦めのニュアンスまでが含まれていると感じられる。これは、デザインのセンスとは生まれながらに持ち合わせた先天的能力であるという解釈からくるものと推察する。

水野学『センスは知識からはじまる』に、以下のような一節がある。水野が教鞭をとる大学の授業で、学生にデザインや企画の「センス」について問われた際、発案に至る思考過程を説明したが、それが自分の考えるセンスの正体であることがどうしても理解されない、という内容である。その経験談を挙げて水野は「センス問題は根深い」としている。この一節から、「センス」の解釈を巡るコミュニケーションの食い違いが起きているのは筆者の周りだけではないことが伺える。

このように「センスは生まれつき備わっているもので、後から変えられない」という解釈が、教育の場に少なからず弊害をもたらしていると筆者は考えている。センスが先天的能力であると解釈すると、つまりは「センスは教育で習得させられない」という結論に至

るからである。

そこに、本研究を通して「センス」という言葉が現在どのような意味で使用されているのかを把握し、整理することの意義がある。

デザイン教育の視座から「センス」の意味を統合する糸口を明らかにすることで、コミュニケーションギャップの是正に関する知見を得ることができると考えた。

(3) 研究の目的・方法

現在のグラフィックデザイン分野において使用される外来語「センス」の意味が統一されておらず、特に「先天的」「後天的」という点において両方存在しているという事実を明らかにするとともに、コミュニケーションギャップの是正に関する知見を得ることが本研究の目的である。

以上の目的に向けて調査を行うが、その方法はKJ法とする。現代のグラフィックデザイン関連書籍を選定し、それらにおいて「センス」がどのような意味で使用されているかが表れている部分を抽出した文章を対象とし、分類整理を行うものである。

2. 先行研究

「センス」という外来語がどのような意味で使用されているかを明らかにした先行研究としては、佐藤琢三(2013)がある。

ここでは新聞記事の記述を根拠として「感覚」と「センス」という2つの単語の意味する内容の違いが明らかにされた。佐藤は「センス」の意味を「スポーツ、芸術、言語等のある特定の領域において、論理過程を経ずに外界の情報として受容したり能動的に外界に働きかける際の能力」と定義づけている。

また、「センス」の意味がどのような変遷を辿ったのかを明らかにした研究として、石場暘(2017)がある。

石は、明治から現代にかけての100年の間

で、意味の変容や新たな意味の出現など、日本において「センス」という言葉がどのようなプロセスを経て変容してきたかを明らかにした。またその中で、意味のバリエーションの分類も試みている。「おわりに」では、現代のデータ収集対象を新聞記事のみとしていることや、使われる分野によって傾向に差が出てくる可能性があることに言及し、それを今後の課題としている。

2つの先行研究に共通しているのは「現代においてセンスの意味は安定し、統一されている」という解釈である。しかしその点は、先述した現場の実状と異なっているように思われる。

3. 現代の書籍における使用状況

センスについての記述が見られる現代の書籍から例を挙げると、『センスは知識からはじまる』において水野は「センスとはつまり、研鑽によって誰にでも手にできる能力と言えます。決して生まれつきの才能ではないのです。」と述べている。

一方で浅野桜は『はじめるデザイン～知識、センス、経験なしでもプロの考え方&テクニックが身に付く』において「デザイナーは選ばれたセンスのある人だけがなれる仕事だ」という意見がありますが、これは誤解です。生まれつきのセンスや、天才的なひらめきは不要なのです。」と述べている。

これらとともに「デザイン能力は誰でも身につけることができる」という点で同様の主張であるにもかかわらず、「センス」という言葉の使い方は全く逆になっている。

以上のように、いくつか例を挙げただけでもその解釈が異なっていることがわかる。

4. 調査について

(1) 調査対象

本研究は「センス」の意味について、現代におけるグラフィックデザイン関連分野を対象を限定し調査を実施することを独自性と捉えている。そのため、調査対象を以下のように定めた。

- ① 2000年1月から2021年7月までに出版された、書名に「センス」を含む書籍のうち2021年7月に北星学園大学図書館・Amazon・Apple Books Storeでそれぞれ書名検索して該当したもの
- ② ①のうちグラフィックデザイン関連分野に属するもの。レイアウト・イラストレーション・色彩を含む。建築・インテリア・プロダクトを含まない。
- ③ 日本語における「センス」の意味の調査なので、洋書は除外する。
- ④ ムック本は雑誌に近い扱いとし、除外する。

その結果該当した17冊の中で「センス」の定義が表れていると筆者が判断した文章を28箇所抽出し、調査対象とした。なお、その内容については後の表2で提示する。

(2) 調査方法

上記の対象を、2021年8月6日に行った大学教員3人によるKJ法で分類整理した。

なお、検討の際は石暘暘(2017)によるA-Eの分類を基準とした(表1)が、「先天的」「後天的」など新たな軸が発生することを想定し、X・Y・Zの項目も設けている(図1)。

表 1 「センス」の意味の分類

意味 A	良し悪しについて繊細な感覚を持ち、見分ける能力
意味 A'	繊細な感覚を持って見分ける能力を生かし、生み出された物の優れたさま
意味 B	人が刺激を受けて、受動的におのずから生じる心理的感覚
意味 C	意味・意義
意味 D	繊細な感覚を持って見分け、遂行する能力
意味 E	単に「遂行する能力」

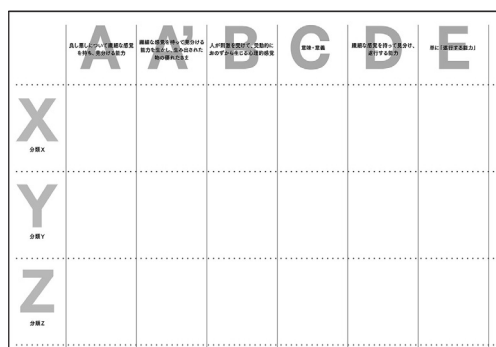


図 1 KJ法に使用したシート

(3) 調査結果

各抽出箇所を検討した結果、以下のような分類となった。(図2~4・表2)

特筆すべき点は以下の3点である。

- ① A (17点) が最も多く、続いて D・E (各 5点) が多い。残りの1点は A'であった。これは石(2017)と概ね同様の結果である。
- ② 今回の調査対象の中には、BおよびCに該当するものはなかった。
- ③ Aに該当する記述の中でも異なる特色を持つグループが形成されたため、以下のように細分化した。
 AX: 知識や経験の蓄積を前提とした「A」
 AY: 生まれながらに持っていることを前提とした「A」
 AZ: 他者との関係性を前提とした「A」

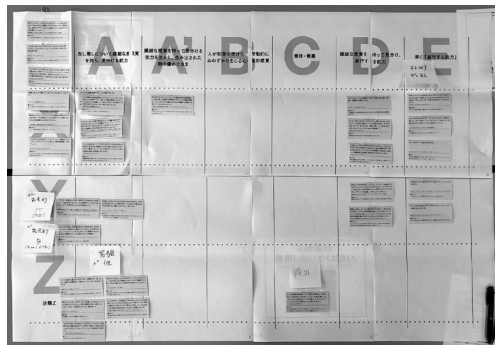


図2 分類結果(全体)

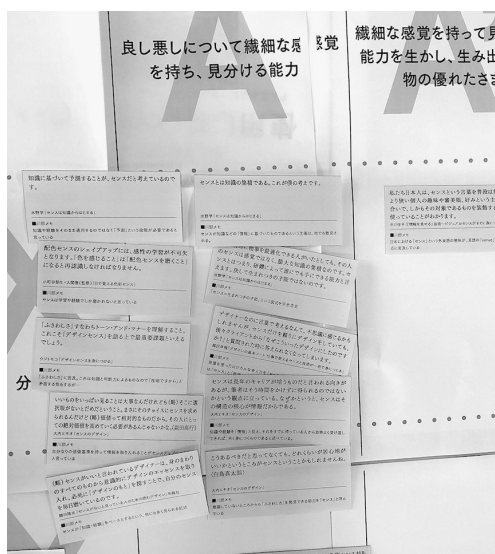


図3 分類結果(A・X部分拡大)

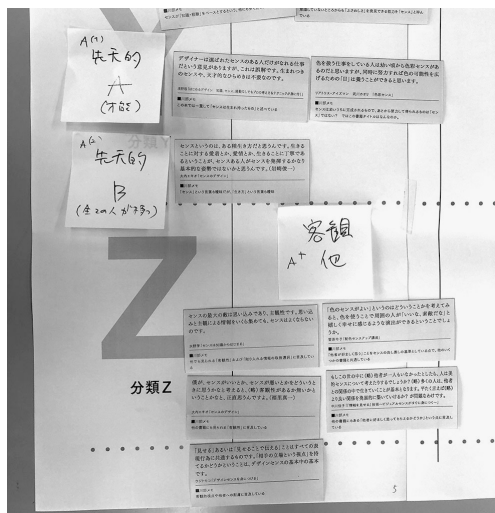


図4 分類結果(A・Y・Z部分拡大)

表2 対象書籍と抽出箇所及び分類結果

No	著者名	書名	抽出箇所	分類結果
1	大内エキオ	センスのデザイン	僕が、センスがいいとか、センスが悪いとかをどういうときに思うかなと考えると、(略)客観性があるか無いかということかなと、正直思うんですよ。(福里真一)	AZ
2			こうあるべきだと思ってなくても、どれくらいが居心地がいいかというところがセンスということかもしれませんね。(白鳥真太郎)	A
3			とにかく沢山こなすということですよ。(略)そうすることによって、その辺りに転がっている言葉の中から、キラキラ光るコピーを“見つけ出す”感覚を磨くことになるとも言える。それこそセンスですよ。(岩崎俊一)	D
4			将来的によりセンスを得たり高めたりするには、やはり、出来るだけ多くの洗練されたあるいは上質の情報収集に尽きるかもしれない。センスはそれらの情報から得る広い意味での「質感表現」の理解に落ち着くのではないかと思う。	D
5			センスは長年のキャリアが培うものと言われる向きがあるが、筆者はそう時間をかけずに得られるのではないかという観点に立っている。なぜかという、センスはその構造の核心が情報だからである。	AX
6			いいものをいっぱい見ることは大事なんだけど(略)そこに選択眼がないとだめだということ。まさにそのチョイスにセンスを求められるんだけど(略)価値って相対的なものだから。その人にとっての絶対価値を高めていく必要があるんじゃないかな。(副田高行)	A
7			センスというのは、ある種生き方だと思うんです。生きることに対する愛着とか、愛情とか、生きることに丁寧であるということが、センスある人がセンスを発揮するかなり基本的な姿勢ではないかと思うんです。(岩崎俊一)	AY
8	水野学	センスは知識からはじまる	「センスのよさ」とは、数値化できない事象の良し悪しを判断し、最適化する能力である。	D
9			いくら瞬時に物事を最適化できる人がいたとしても、その人のセンスは感覚ではなく、膨大な知識の集積なのです。センスとはつまり、研鑽によって誰にでも手にできる能力と言えます。決して生まれつきの才能ではないのです。	AX
10			知識に基づいて予測することが、センスだと考えているのです。	AX
11			センスの最大の敵は思い込みであり、主観性です。思い込みと主観による情報をいくら集めても、センスはよくなりません。	AZ

No	著者名	書 名	抽出箇所	分類結果
12	中川佳子	『情報を見せる』 技術～ビジュアル センスがすぐに身 につく～	意識すべき点は、ビジュアル表現に関わるものを「アートのひらめきなど(略)」と「ロジカル(略)技術的な部分」にわけて考えるということです。そうすれば、現在<センス>という言葉で片付けられているものも(略)確実に積み上げていけると考えることができるでしょう。	D
13			もしこの世の中に(略)他者が一人もいなかったとしたら、人は美的センスについて考えたりするでしょうか?(略)多くの人は、他者との関係の中で生きていくことが基本となります。平たく言えば(略)より良い関係を発展的に築いていけるか?が問題なわけです。	AZ
14			私たち日本人は、センスという言葉を普段は無意識に、より狭い個人の趣味や審美眼、好みという主観的意味合いで、しかもその対象であるものを装飾する場合にも使っていることがわかります。	A'
15	ウジトモコ	デザインセンスを 身につける	デザインセンスに自信のない人は、デザインとはデザイナーの「ひらめき」や「感性」から生まれるものと考えがちですが、技術ですから、正しく学べば誰でも必ず身につけられるものです。	E
16			「見せる」あるいは「見せることで伝える」ことはすべての表現行為に共通するものです。「相手の立場という視点」を持てるかどうかということは、デザインセンスの基本中の基本です。	AZ
17			「ふさわしさ」すなわちトーン・アンド・マナーを理解すること。これこそ「デザインセンス」を語る上で最重要課題といえるでしょう。	AX
18	鎌田隆史	センスがないと思 っている人のため の読むデザイン	センスがいいと言われているデザイナーは、身のまわりのすべてのものから意識的にデザインのエッセンスを取り入れ、必死に「デザインのもと」を探すことで、自分のセンスを毎日磨いているのです。	AX
19			色やレイアウトを決定していくとき、デザイナーは感性だけでデザインをしているわけではありません。こうしたきれいな見えるという基本原則・ルールを使いこなして「センスがいいデザイン」を意識して作り上げているのです。	D
20	小町谷朝生 ・大関徹(監修)	目で覚える色彩セ ンス	配色センスのシェイプアップには、感性の学習が不可欠となります。「色を感じること」は「配色センスを磨くこと」になると再認識しなければなりません。	AX
21	ヨシタミチコ	ヨシタミチコの色 彩術 色と香りで センスアップ	センスのポイントは色合わせです。	E

グラフィックデザイン分野における外来語「センス」の意味について

No	著者名	書名	抽出箇所	分類結果
22	菅原令子	配色センスアップ講座	「色のセンスがよい」というのはどういうことかを考えてみると、色を使うことで周囲の人が「いいな、素敵だな」と嬉しく幸せに感じるような演出ができるということでしょうか。	AZ
23	リアトリス アイズマン ・武川カオリ	色彩センス	色を扱う仕事をしている人は幼い頃から色彩センスがあるのだと思いますが、同時に努力すれば色の可能性を広げるための「目」は養うことができると思います。	AY
24	尾沢早飛	デザインの基本ノート 仕事で使えるセンスと技術が一冊で身につく本	デザイナーなのに言葉で考えるなんて、不思議に感じるかもしれませんが、センスだけを頼りにデザインをしていても、後々クライアントから「なぜこういったデザインにしたのですか?」と質問された時に答えられなくなってしまいます。	AY
25	浅野桜	はじめるデザイン知識、センス、経験なしでもプロの考え方&テクニックが身に付く	デザイナーは選ばれたセンスのある人だけになれる仕事だという意見がありますが、これは誤解です。生まれつきのセンスや、天才的なひらめきは不要なのです。	AY
26	深田美千代	センスがなくても大丈夫! まねるだけで伝わるデザイン	さて、ロゴはできましたか? デザインのセンスより、なぜ? と自問することが大事。	E
27	Ingectar-e	見てわかる、迷わず決まる配色アイデア 3色だけでセンスのいい色	3色配色のコツを覚えるだけで、誰でもセンスよくまとめられます。	E
28	山口茂	POP1年生 センスがなくてもPOPは書ける!	センスとは何でしょうか? 多くの人がPOPに必要だと思い込んでいるのは「イラストが上手」「文字が上手」「色使いのバランスがいい」などの美的センスです。	E
-	藤本やすし	雑誌をデザインする人と現場とセンスの秘密	該当箇所なし(本文中に一度も「センス」が使用されていない)	
-	藤岡功	なっとくレイアウト 感覚やセンスに頼らないデザインの基本を身につける	該当箇所なし(本文中に一度も「センス」が使用されていない)	
-	しろくま ななみん	ボールペン1本でセンスがいらってほめられる! ゆるっとかわいいイラストの描き方	該当箇所なし(本文中に一度も「センス」が使用されていない)	

5. 分析・考察

(1) 調査結果の分析

先行研究では「現代のセンスの意味は安定し、統一されている」との見解が示されていたが、調査の結果、グラフィックデザイン分野の書籍で使用されている「センス」の意味には統一しがたい多義性があった。

まずは「A」と「E」についてであるが、前者は「見分ける能力(判断力)」、後者は「遂行する能力(技術力)」である。「D」のように両方を合わせた意味で使用されていることもあったが、単にどちらかの意味である場合のほうが多く、それらをひとつの定義で説明するのは困難である。

続いて「A」の中で細分化した「AX」と「AY」についてである。前者は「後天的なA」、後者は「先天的なA」である。「センス」の意味に先天的・後天的という前提が含まれ、かつ両方が混在していることについては先行研究で言及されておらず、本研究で明らかになったことと言える。

他にも「AZ」として、他者から評価されて初めて「センス」は存在しうる、測りうるという解釈も複数見られた。

(2) 考察

以上の結果を踏まえ、デザイン教育の視座から「センス」の意味の望ましい形について考察していきたい。

まず、調査結果にAYが一定数あったが、教育の場において使用される「センス」という言葉に「生まれつきの能力であり、後からは身につかない」というニュアンスが含まれることは望ましくない。学生がそのように解釈すると「努力する意味がない」と思い至り、結果として挫折に結びつく可能性があるからである。

今回の調査結果では「後から身につけられる・磨くことができる」との解釈をする記述

(AX)のほうが多かった。このことから、「センス」は後天的なものであると考えるほうが妥当かつ有益であろう。少なくともデザイン教育の場では、そちらに統一するほうが望ましい。

学生側の認識が変われば、デザインセンスを磨くことを目的とした教育プログラムの意義も伝わりやすくなり、より円滑に展開することができるはずである。

また、「判断力(A)」「技術力(E)」どちらかの意味に偏ってしまうことも、デザイン教育においてはふさわしくない。ビジネスや、着側としてのファッションなどであれば「判断力」があれば目的は達せられるが、作品を創り出す立場においては、両方がバランス良く備わって初めて「センス」は発揮されるからである。そのような場面において最もふさわしい「センス」の定義はDの「繊細な感覚を持って見分け、遂行する能力」であると考えられる。

さらに、A群の中で一つ異質に見えるAZも重要な意味を持っている。「客観性・他者の評価」といった判断基準はAXやDとも矛盾なく共存でき、かつ「繊細な感覚を持って見分ける」という解釈に根拠を与え、補強する役割となりうる。

以上のような認識をデザイン教育に取り入れることによって学生は、訴求したいメッセージやターゲット、同カテゴリーの他作品が示す傾向などを把握した上でオリジナリティを加味し、最も適切な表現に技術力を投入する術を習得していくこととなる。そして、それがグラフィックデザインにおける「センス」の正体であることに自ら気づくことができるはずである。これは、デザイン教育が目指す最大の成果であると言ってもよいであろう。

6. おわりに

本研究では、現在のグラフィックデザイン分野において使用される外来語「センス」の意味が統一されていないという事実を明らかにすることを目的とし、関連書籍の記述をKJ法により分類整理した。

その結果、「センス」という言葉には異なる解釈が混在しており、先行研究が明らかにしたような単一の定義に留まっていないこと、特に「先天的」「後天的」という点において全く逆の解釈があることが明らかになった。

先行研究の対象が、日本語を正しく使用することが求められる新聞であったことに対し、本研究の対象が書籍であったことも結果の違いに影響していると思われる。しかし、デザイン能力を身につけたいと考える人が手に取る専門書がそのような状況になっていることはやはり問題である。今後、デザイン関連の書籍が発行されるにあたっては、より望ましい形で「センス」という言葉を使用してほしいと願う。

またその一方で、グラフィックデザイン教育において「センスが後天的に身についた、向上した」と学生が実感できる体験をいかに提供するかは教育従事者の課題となる。「センス」の意味にギャップを生まないデザイン教育のあり方は、我々が今後取り組んでいくべき重要なテーマである。

【謝 辞】

本研究において多大なご協力を賜った北海道教育大学大学院の花輪大輔先生に、心より感謝の意を表します。

【参考文献】

- [1] 中村雄二郎 (1979)『共通感覚論』岩波書店
- [2] 佐藤琢三 (2013)「「感覚」と「センス」－語種を超えた類義関係－」語学教育センター論文集 第10巻 pp.19-33
- [3] 石暘暘 (2017)「近現代における外来語「センス」の変遷」文芸研究：文芸・言語・思想 日本文芸研究会 184号 pp.45-31
- [4] 小町谷朝生・大関徹 (監修)(2002)『目で覚える色彩センス』工作舎
- [5] ヨシタミチコ (2002)『ヨシタミチコの色彩術 色と香りでセンスアップ』誠文堂新光社
- [6] 菅原令子 (2003)『配色センスアップ講座』PHP エル新書
- [7] 中川佳子 (2003)『「情報を見せる」技術～ビジュアルセンスがすぐに身につく～』光文社新書
- [8] 藤本やすし (2006)『雑誌をデザインする人と現場とセンスの秘密』ピエ・ブックス
- [9] 大内エキオ (2010)『センスのデザイン』誠文堂
- [10] ウジトモコ (2011)『デザインセンスを身につける』ソフトバンク新書
- [11] 水野学 (2014)『センスは知識からはじまる』朝日新聞出版
- [12] リアトリス・アイズマンほか (2014)『色彩センス』パイ・インターナショナル
- [13] 藤岡功 (2015)『なっとくレイアウト感覚やセンスに頼らないデザインの基本を身につける』エムディエヌコーポレーション
- [14] 尾沢早飛 (2018)『デザインの基本ノート 仕事で使えるセンスと技術が一冊で身につく本』SBクリエイティブ
- [15] 浅野桜 (2019)『はじめるデザイン』

知識、センス、経験なしでもプロの考
え方&テクニックが身に付く』技術評
論社

- [16] 深田美千代 (2020) 『センスがなくて
も大丈夫! まねるだけで伝わるデザ
イン』ダイヤモンド社
- [17] Ingectar-e (2020) 『見てわかる、迷わ
ず決まる配色アイデア 3色だけでセ
ンスのいい色』インプレス
- [18] しろくまななみん (2021) 『ボール
ペン1本でセンスがいいってほめられ
る! ゆるっとかわいいイラストの描き
方』ワニブックス
- [19] 山口茂 (2021) 『POP1年生 センス
がなくても POP は書ける!』すばる
社
- [20] 鎌田隆史 (2021) 『センスがないと思
っている人のための読むデザイン』旬
報社

